

## 「佐仁小学校の佐仁八月踊り伝承活動の取組」

### 1 学校名

奄美市立佐仁小学校

### 2 学年・人数

全児童（計11人）

### 3 日時・場所

#### (1) 練習の日時・場所

平成31年4月～令和2年2月 総合的な学習の時間、音楽（本校体育館）

#### (2) 発表の日時・場所

令和元年9月29日（日） 秋季大運動会（本校校庭）

令和元年11月9日（土） 学習発表会（本校体育館）

令和2年2月23日（日） 危機的な状況にある言語・方言サミット（奄美大会）

### 4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統的行事について

#### (1) 名称

佐仁八月踊り（さにはちがつおどり）

#### (2) 由来

起源は不明であるが、ノロ神の祭式の踊りとして端を発したらしい。そこに村人たちが加わり、旧暦8月の丙（ひのえ）を「アラセツ」、壬（みずのえ）を「シバサシ」として、家々を踊り回りながら火災予防祈願をしたことが由来となっている。その後、五穀豊穰祈願の意味も加わり、グループ形成の踊りに形態を変えながら現在に至っている。

#### (3) 構成等

「イソ(衣裳)踊り」を踊りながら最初の家に向かう。チゼンの音を聞きつけた住民が集まり、輪になってシマ唄に合わせて踊り始める。男性が打ち出す歌に女性が歌い返しながらか最初はゆっくりと踊るが、途中からチゼンの刻むリズムが早くなり、踊りも激しくなる。2曲ほど踊ると、最後は「六調踊り」で締めくくる。なお、チゼンを打つのは女性と決められているのが佐仁の特徴である。

### 5 保存会や地域との連携の具体

佐仁校区の八月踊りは県の無形文化財に指定されるなど、文化的価値が高い伝承文化として有名である。一方で近年は、歌いながら踊ることができる後継者の育成が校区のニーズとなっている。そのニーズに対し、本校では、月1回のシマ唄・八月踊り教室を教育課程に位置付けている。また、ナカドゥチェス市（アメリカ合衆国）中学生との交流学習やふるさと体験留学生との交流、鹿児島大学の教育環境観察実習の活動に、校区

の方々との合同練習会位置付け、本物に触れる機会としている。

## 6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

校区のニーズに応え、後継者育成を意図した伝承活動を行うためには、子供に明確な目標をもたせることも必要であると考えた。そこで、「学習発表会で子供だけの八月踊りを披露する」という目標とその達成のための道筋を子供たちと共有した。また、校区の方々との合同練習を充実させるためには、より多くの校区の方々に参加していただくことが必要だと考えた。そこで、佐仁校区2区長の竹田洋二氏や学校応援団の安田重照氏に協力を依頼し、広報を行っていただいた。また、合同練習日の前々日から1日2回、校区内放送による案内放送を教頭が行った。さらに、本校の取組について校区の方々に知っていただき、協力体制を確立するため、全校区に配布している学校便りやPTA新聞で特集記事を組み、積極的に啓発を行った。

## 7 取組の様子



【八月踊り練習の様子】



【交流学习における合同練習】



【運動会における八月踊り】



【学習発表会における八月踊り】

## 8 参加児童・保存会・教員等の感想・意見

4月は「難しいな」と思っていたけれど、練習を頑張ったら、先生やお兄さんお姉さんに「すごく上手になったね」とほめられました。今では、歌いながら踊ることができます（1年生児童：八月踊り教室の感想発表より）。

ぼくたちは八月踊りの練習を4月から頑張ってきました。そして、2学期は毎朝練習をしました。佐仁の伝統を受け継ぐぼくたちに注目してください（5年生児童：学習発表会校区向け案内原稿より）。

子供たちだけでチヂンをたたき、歌を歌いながら上手に踊ることができていた。これだけの人数で、ここまでできる子供たちはなかなかいないと思う。大したものです（保存会会長：学習発表会の感想より）。

練習を重ねるにつれ、子供たちがシマ唄を口ずさんだり、伝統を受け継ぐ決意を口にしたりするようになってきた。地域と連携しながら進めている伝統芸能継承や後継者育成の取組の成果だと実感している（シマ唄・八月踊り教室担当教諭談）。